長洲町立長洲小学校　校長便り　№１１３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年９月４日(月)

読書は健康に良いらしい!?

全国学力・学習状況調査の結果が７月末に公表された。長洲小学校はトータルで国や県の結果を上回り、どちらかといえば高い水準にある。しかしながら、手放しでは喜べない。その理由はこうだ。

この調査には学習指導要領の内容とリンクしており、項目（詳細は省略）ごとに強みや弱みが分かるようになっている。本校は、算数については全ての項目について国、県を上回っていた。しかし、国語については「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」国、県共に下回っている。特に「書くこと」については正答率において11%ほど国、県を下回っている状況だ。これが何を意味するのか私見を交えて深読みしてみた。

「書くこと」すなわち、アウトプット、自分の考えを文字として表現することだ。実社会ではかなり重要なスキルである。書く力を向上させるには、優れた文章を読むことが欠かせない。というより、優れた文章を「読む」ことからしか「書く」力を伸ばす術はないと思う。「読む」「書く」は表裏一体なのだ。（読む文章はあくまで一定水準の優れた文章でなければならない。一定水準というのは「日本語として正しく表現されているかどうか」を基準として欲しい。）

「読む」力と「書く」力が高まれば、外部の刺激から情報を取捨選択し、自分自身の言葉で表現することが可能となってくる。そうなれば「情報の扱い方に関する事項」についても改善されることが期待できる。では、私達は何をすべきか?「読書」しかない。

子供達の学力向上のための読書の啓発は我々教職員の命題であるが、実は読書は大人も含むところの「健康」にも良いらしい。それを列記したい。

①読書は脳のつながりを強化する

ある研究では、小説を読むことで脳の言語処理能力が向上し、コミュニケーションが増えることが分かっている。

②読書は加齢による認知力の低下を防ぐ

科学者たちは、読書が加齢による認知力の低下を食い止め、認知機能を守ると考えているらしい。読書は認知症のリスクの低下にもつながるようだ。

③読書はストレスレベルを低下させる

研究で、30分間の読書がストレスの身体的、精神的サインを減少させることが分かっている。

④読書は長生きにつながることも!?

2017年に発表された12年間に及ぶ大規模な研究では、読書をする人の死亡リスクは読書をしない人に比べて20%低いことが分かっている。

⑤読書は記憶力と集中力を向上させる

脳は筋肉ではないが、エクササイズから恩恵を受ける。ウエイトリフティングが私達の身体を強くするように、読書は私達の記憶力や集中力を鍛えてくれる、努力を要するプロセスだ。

さて、これらのことを信じるか信じないかは個人の自由だが、少なくとも「読書」よるメリットは学力向上以外にもありそうだ。次回は読書の習慣づけについて私見を述べる。

シリーズ「自分を語る」#113

その年の私は、学級が安定傾向にあったため校務にかなりの時間をつぎ込みました。校内研究というと、保護者の皆様からは「何のことかな?」と思われるかもしれませんね。簡単に言いますと、私たち学校の先生には常に指導方法を更新していく義務があり、授業のスキルを磨くために勉強しなければならないということです。私は他の先生方が授業のスキルを上げることができるようにお世話をする役でした。誰もがスキルを上げていくためには、自ら授業を公開し他の先生方から意見を頂いたり指導して頂いたりしなければなりません。しかし、どの先生に授業をお願いしても、なかなか首を縦に振ってはくれませんでした。普通そうですよね。準備等に時間がかかりますから、気持ちは解ります。じゃ、どうするか? 簡単です、私がすればいいだけのことです。私は新しいことに挑戦することには、あまり抵抗がありませんでした。当時の学習指導要領の求めていたことを自分の学級で試すことができる、こんな実験的な試みは何かソクゾク（ワクワクではなく）します。

てな訳で1回目の研究授業は「道徳」でした。結果は:散々なものでした。と言うより、学校長が考える授業、あるいは学習指導要領が求める姿とはかけ離れていたのです。私の授業は旧態依然とした一問一答式の授業となってしまいました。活発に意見が出ているようにも見えましたが、子供達同士の意見の交流や学び合いの場面が設定できなかったのです。優れた先生方の優れた授業は、子供達が活発に学び合う場面が設定されていました。それがこの時の研究授業ではできていなかったのです。

それから数日後、私は計画には無かった研究授業を行うことにしました。学校長の指導の下、子供達の考えや意見を繋いでいくサポートを行い、授業を組織することにしたのです。自分達で意見を繋いでいく姿は感動的ですらありました。現在、長洲小学校でも実践している「学び合い」と重なる部分が多いです。優れた授業というのは、児童が主体的、協働的に活動する授業であり、その様な授業をコーディネートすることができる教師が優れた教師と言えるのでしょう。

この授業をきっかけにして、他の先生方も授業を公開してくださるようになりました。私はこの年に5回の研究授業を行いました。道徳、外国語、体育、算数、特別活動…。今思い出せば何とも作れない恥ずかしい授業ばかりでした。でも、今になって考えれば、その時の学びは自分の糧となっていますし、良い思い出になっています。

研究発表会は十一月でした。当日までに研究紀要等を作成しなければならず、実質、紀要の原稿作成は夏休み中に行わなければなりませんでした。夏休みに入るとすぐに校長先生からお呼びがかかりました。

「研究紀要原稿とプレゼンは、夏休み中に作成してね。出来れば、お盆前までに作成して。」「まじっすか!?」「よかよか、俺も手伝うけん。」

これをきっかけに、校長先生の自宅で作業する日も数日ありました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）